

② 第2委員会

「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」



それでは、第2委員会の意見を発表します。

第2委員会のテーマは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは8月18日に、動物^{あいご}愛護センターの^{しせつ}施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは^{とうほご}管理棟に保護されているもとの^か飼い主や新しい^か飼い主を待つ^{ねこ}犬や猫と、^{ねこ}犬や猫を^{さつしよぶん}殺処分する機械を見ました。^{さつしよぶん}殺処分される^{ねこ}犬や猫を救うには、一人一人の努力が必要です。また、^{あいご}愛護館では事業^{ねこ}犬や事業^ふ猫と触れ合いました。そして、^か飼い主の^{せきにん}責任や^{あいご}愛護センターで働く人、名古屋市民の^{みな}皆さんに向けて、感じたことを伝えたいと思いました。

その後、^{わたし}私たちは、^{しせつ}施設見学をしてわかったことや思ったこと、感じたことをもとに、名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするためには何をすればいいか、考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

私は、施設見学に行き、飼い主が見つからず殺処分されてしまう動物に驚きました。この現実をまだ知らない子どもが多いと思ったので、市内の小学生が、一度は動物愛護センターに行く機会をつくるといいと思います。こうすることによって、自分は動物を飼える環境なのか、最後まで飼えるのかどうかを考える人がふえると思います。そして、殺処分される動物が1頭でも減り、いつか殺処分ゼロが当たり前の名古屋市になるといいと思いました。

○子ども議員

名古屋市動物愛護センターの施設を見学し、いろいろな仕事の話聞いて、職員さんが迷子や飼えなくなった犬や猫の飼い主を捜したり、正しい飼い方の指導をするなど、多くの動物が幸せになるよう一生懸命頑張っていることを知りました。でも、最後まで飼い主が見つからない動物は殺処分されてしまいます。このような悲しい出来事が少しでもなくなるように、私たち一人一人が思いやりを持って動物とかかわり、動物の命を大切にしていかなければいけないと思います。

○子ども議員

わたし 私は、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするには、まず犬や猫を簡単な気持ちで飼わないということが大切だと思います。

平成26年度では、動物愛護センターに1953頭の犬や猫が収容されてきました。そのうち飼い主の事情で飼えなくなってしまった犬、猫が486頭います。そして、殺処分された数は1253頭、全体の6割もの数になるのです。

わたしたちの勝手な事情で犬や猫が死んでしまうことがあります。私たち一人一人が犬や猫のことを考え、今の状況をjyōkyōuすることで、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」になると思います。

○子ども議員

わたし 私は、愛護センターで学んだ中で、印象に残っているのは名札です。私たちも実際に犬や猫と触れ合いました。そのときの犬や猫にも名札がついていました。人間と同じく犬や猫にも気持ちがあります。この人の膝に乗っても大丈夫だ、またはこの人にさわられてもこわくない、このような二つの思いがあれば、必ず犬や猫は寄ってきます。そのときに、名札があれば知らない人からでも呼んでもらうことができます。

愛護センターにはたくさんのポスターがありました。それをたくさんの人に見てもらうためには、商店街に張ったりしたらいいと思いました。また、名札をつけるように呼びかけをするポスターを張れば、もっといいと思いました。

○子ども議員

私は犬が大好きで、もっと犬のことが知りたくて第2委員会を選びました。でも、行ってみたら思ったのと違いました。犬はみんなの人気者で、かわいくて大切に育てていて家族みたいな動物だと思っていました。でも、現実^{げんじつ}は凶暴^{きょうぼう}だったりおびえていたり、飼い主^かに捨てられ、愛情^{あいじょう}を注がれず、やがて殺されてしまう犬が多くてびっくりしました。殺されないように最後までしっかり面倒^{めんどう}を見る社会にしたいと思います。犬も飼い主^かに捨てられて寂^{さび}しいと思います。

○子ども議員

施設見学^{しせつ}を通して私^{わたし}が考えたことは、動物の命を粗末^{そまつ}に扱^{あつか}う人、それを規制^{きせい}し切れていない社会^{そんざい}が存在^{うば}してしまっていることです。しかし、自分勝手なことで動物の命を奪^{うば}わないでほしいと思います。飼い主^かは、愛護^{あいご}センターに預けることで一段落ついたと忘れてしまうのです。このように殺すということがほかの人により間接的^{かんせつ}に行われているために、簡単^{かんたん}に預けてしまう人がいるのだと思います。このことから、責任^{せきにん}を持って飼^かう、ペットを買うことの意味、そして飼^かう前によく考える必要があると思います。

○子ども議員

殺処分さつしよぶんされる動物を減へらすために私が考えたことは、ペットショップで動物を買うときに、どれぐらいの動物が殺処分さつしよぶんされているか、わかるグラフのようなものを渡わたして、命の大切さや動物の正しい飼かい方を伝えていく方法です。

もう一つ考えたのは、動物を捨すてることは犯罪はんざいで、罰金ばっきん100万円です。これは余あまり知られていないと思います。

このことをもっと厳きびしく取り締しまって、飼かい主の意識いしきが変わればいいと思いました。

○子ども議員

僕は、動物愛護センターを見学して、平成26年度で犬が59頭、猫が1194頭殺処分さつしよぶんされていることを知りました。殺処分さつしよぶんされる理由は、「飼かい主の勝手な都合により捨すてられる」と「迷子になる」です。これらの改善策は二つあります。

一つ目、飼かい主の勝手な都合に対しての改善策かいぜんさくは、ペットショップで犬や猫を購入ねこ こうにゅうするときに、ペットが飼えなくなったとき気軽に相談できる相談ダイヤルを紹介すればいいと思います。

二つ目、ペットを迷子にさせない改善策かいぜんさくは、飼かい主の情報じょうほうがわかるマイクロチップの義務化です。ペットショップで犬や猫を購入ねこ こうにゅうするときに登録しなければいけないことにすればいいと思いました。マイクロチップを登録することで、ペットの迷子まいごを防ふせぎます。

この二つを実施することにより、殺処分さつしよぶんされるペットの数を減へらすことができます。

○子ども議員

私^{わたし}の最も印象に残ったことは、身元表示^{ひょうじ}ができるものを動物がつけていけば、もとの飼い主^かへ戻^{もど}られるということです。そこで、ペットショップや動物病院などで身元表示^{ひょうじ}ができるものをつけているかを必ず確認^{かくにん}するように呼びかけることが大切だと思いました。一人でも多くの飼い主^かさんに、迷子^{まいご}になっても帰って来られる方法があることを知ってほしいです。動物を飼^かう前に、その動物について理解^{りかい}した上で飼^かうことが「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」につながると思いました。

○子ども議員

名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするには、飼い主^かさんが責任^{せきにん}を持って飼^かうことが大切だと思います。動物を飼^かう前には、その動物のことをよく考えて、最後までしっかりと飼^かってほしいです。飼い主^かが動物の飼いやすい環境^{かんきょう}をつくることも必要だと思います。例えば動物用の保険^{ほけん}や病院^{じゅうじつ}を充実させることで、飼い主^かさんが飼いやすい環境^{かんきょう}をつくることができます。あと、ペットホテルなども充実^{じゅうじつ}するとよいと思います。

○子ども議員

愛護センターに来た犬や猫は、もとの飼い主さん、新しい飼い主さんに引き取ってもらえないと殺処分になってしまうことから、私は絶対に動物は捨ててはいけないと思いました。そして、それを伝える公開授業を学校で開いて、いろんな人に知ってもらえば、殺処分になってしまう動物も減るのではないかと思います。

動物を飼ったら責任を持って飼ってください。動物は私たちを笑顔にしてくれる大切なパートナーです。絶対に捨てないでください。動物と仲よくなるには、正しい飼い方をすることだと思いました。

○子ども議員

僕が動物愛護センターの見学をして、動物愛護センターの職員の方の話聞いてわかったことがあります。

それは、動物を飼っていない人にも、殺処分されてしまう動物の数を減らすことができるということです。減らすためには、僕たちの努力が必要です。僕はポスターなどを掲示して、今の現状を知ってもらったり、人々が多く集まるショッピングセンターや町なかなどで呼びかけ活動をするというのではないかと思います。社会の中の一人一人が努力しないといけないことだと思います。

○子ども議員

私^{わたし}たちの住んでいる名古屋の主な施設^{しせつ}を実際に体験^{じっさい}し、興味関心^{きょうみ}を高めること、お互い^{たが}を思いやる心を育むというのが、この市会の目的^{たし}でした。確かに動物愛護^{あいご}センターで学んだことで、多くの犬猫^{ねこ}がかわいそうな最期^{むか}を迎えていることも知りました。

でも、飼^かっているのは大人です。子どものうちから同センターや動植物園を利用して、学校でも鳥小屋^{ふっかつ}を復活させるなど、身近なところから生き物を大切にする心を育てていくべきです。結果、人の心や命も大切にできるようになり、いじめもなくなるんじゃないかと思いました。

私^{わたし}たち第2委員会は、このようなことが名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第2委員会の発表を終わります。



■ 成田財政福祉委員長の答弁

第2委員会の皆さん、お疲れさまでした。
大変短いお日にちで3日目、もうあっという
間でありました。今立派にこれまでの2日間、
そしてきょうの始まる前のリハーサル、本当
に短い時間でよくここまで意見を取りまとめ
て、またこうした難しい、緊張する場面で
正々堂々と発表できたことに、本当にうれし
く思います。今発表いただいたそれぞれの意
見は、ちょうど副委員長の山口議員、それから長谷川議員ともお話
ししていましたが、もう本当に、多分委員会で私たちがいろ
いろと引用できるんじゃないかなと、そんな具体的な提案もたくさ
んあって、本当に私たちがうれしく、また、ためになって逆に学ば
させていただいたところでもありました。



私が思うこのたびのテーマ「いのちを大切にし、思いやりのある
まちづくり」、そんな社会にしていきたい、こういったまちかなと思
ったときに、今回は動物愛護センターに行って、犬や猫、そして多
分余り聞きなれない殺処分、殺す、殺めて、そして処分するという
非常に聞きなれない、また重たい言葉を聞いたと思います。

私自身もこの言葉、正直議員になってから目の当たりにさせてい
ただき、そして実際に現場を見に行きました。皆さん方は、そうい
った経験を多分きょうの議場にいる中で、第2委員会の皆さんが特
別経験、体験をいたしたところであると思います。どうか、この経験
は、先ほど第1委員会の中里委員長からも言われましたけれども、

ほかの方はできない経験^{けいけん}でありますから、お友達、また御家族^ご、いろんな場面でぜひ生かしていただきたいと思います。

私^{わたし}自身が思えるのは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」というのは、自分とは違う人^{ちが}がいて、それが当たり前^{となり}に思える社会です。いいですか、お隣^{ちが}にいる方、みんな違うんです。体つきも性別^{せい}もまた生き物であっても、人間だけじゃないということを多分知ったと思います。ぜひそういった気持ち^{むね}を胸に、これからも取り組んでいただきたいと思います。

第2委員会副委員長の長谷川^{はせがわ}副委員長さん、そして山口^{やまぐち}副委員長さん、そしていろいろとお気遣い^{きづか}いただいて御支援^{ごしえん}いただきました星野^{ほしの}先生、代表^{わたし}いたしまして私^{わたし}からの講評^{こうひょう}、挨拶^{あいさつ}といたします。本当に3日間ありがとうございました。また、これからもよろしく願います。

